

## 令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東住吉中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

○運営に関する計画の最終評価（自己評価）結果は概ね妥当である。

○各種アンケート結果は、昨年度より肯定的回答が向上しているものがほとんどで、学校の教育目標「個性を伸ばし、創造性を育てる」「健全な社会性を育てる」「高く、豊かな人間性を育てる」の達成に向けて取り組まれていることが示されている。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 年度目標

**【安全・安心な教育の推進】****全市共通目標（中学校）**

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 92%以上にする。【94.3% 目標達成】
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
【令和 5 年度 6.67% 令和 6 年度 8.3% 目標未達】
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。  
【令和 5 年度 41.4% 令和 6 年度 44.4% 目標達成】

**学校の年度目標**

- ・年度末の生徒アンケート調査で、「自分自身は学校のルールは守っている。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。【97.2% 目標達成】
- ・年度末の生徒アンケート調査で、「生徒会活動や専門委員会活動、学級の係活動に積極的に協力している。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。【令和 5 年度 75.3% 令和 6 年度 75.2% 目標未達】
- ・年度末の生徒アンケート調査で、「学級活動等で自分の意見をよく発表する。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。【令和 5 年度 48.7% 令和 6 年度 46.6% 目標未達】
- ・年度末の保護者アンケート調査で、「子どもが悩んだりしているとき、学校は相談できる機会や体制を整えている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度以上にする。  
【令和 5 年度 78.9% 令和 6 年度 85.5% 目標達成】
- ・年度末の保護者アンケート調査で、「イジメや不登校の問題に対して、学校は努力して取り組んでいる。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度以上にする。【令和 5 年度 79.3% 令和 6 年度 87.6% 目標達成】

○達成状況の評価については概ね妥当である。

○校内適応指導教室地域（ヒスミカフェ）が不登校の状況の改善に大きく役立っているということがわかる。引き続き不登校の要因を分析し、生徒の不安を感じず安心して登校できる環境を整備して、状況が改善するよう取り組んでいただきたい。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 全市共通目標(中学校)

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。【31.4%目標未達】
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。【3年生(76期生)国語は目標達成。数学は目標未達 2年生(75期生)国語、数学とも目標未達】
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。【59.9% 目標未達】
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。【64.9%目標達成】

### 学校の年度目標

- ・年度末の生徒アンケート調査で、「集中して授業を受けることができる。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。【令和5年度 82.7% 令和6年度 81.2% 目標未達】
- ・年度末の生徒アンケート調査で、「自分の健康については気をつけている。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。【令和5年度 84.2% 令和6年度 87.8% 目標達成】
- ・年度末の保護者アンケート調査で、「授業では、教材や教え方が工夫されている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度以上にする。【令和5年度 79.4% 令和6年度 80.3% 目標達成】

○達成状況の評価については概ね妥当である。

○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は目標を下回っているが、大阪市平均を上回ることができた。チャレンジテストにおける英語の結果は大阪府の平均を大きく上回っている。4技能のうち「聞くこと」「話すこと」に課題があり、改善に向けて取り組む必要がある。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標(中学校)

#### ICTの活用に関する目標

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。【目標達成】

#### 教職員の働き方改革に関する目標

- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を50%以上にする。【83.3% 目標達成】

### 学校の年度目標

#### ICTの活用に関する目標

- ・年度末の教職員アンケート調査で、「ICTを活用した教育を推進した」に対して、肯定的に回答する教職員の割合を85%以上にする。【83.3% 目標未達】

#### 教職員の働き方改革に関する目標

- ・一か月あたりの時間外勤務実績の平均時間が 60 時間を超える教職員を 10 名以下にする。  
【12名 目標未達】

- 達成状況の評価については概ね妥当である。
- 教員の長時間勤務については、部活動の指導によるものが大きいが、そのことが教員のやる気を引き出している場合もある。部活動指導員の活用などを通して、教員の負担軽減を行っていく必要がある。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- 各種アンケート・テストの結果からも、取り組みの成果が見られる。今後も、生徒の学力、体力の向上の取組にご尽力いただきたい。
- 学力向上や進路保障について、保護者が安心できる環境づくりに注力していただきたい。
- 不登校生徒や出席停止で登校できない生徒の学力保障として、校内適応指導教室（ヒスマカフェ）や授業のオンライン配信の取り組みは評価できる。今後も充実した取り組みを進めていっていただきたい。
- 「文化の集い」や「ヒスマフェスティバル」での生徒中心の取り組みについて、生徒の自主性を育むものとして評価できる。引き続き生徒の自己有用感、自己肯定感を高める取り組みを進めていただきたい。